

ヨコハマ市民まち普請事業

# 整備事例集 vol.7

●●平成 24 年度整備事例集



私たちのまちを 私たちでつくる  
きつとまちが好きになる

ふ-しん【普請】「普く請う(あまねくこう)」とも読み、「力を合わせて作業に従事すること」という意味が含まれています。「公共」は行政によってのみ担われるものではなく、特に地域に根ざした身近な課題への対応などに市民のみなさんが主体的に関わることで、参加する人や地域に暮らす人々の満足感を高めることに繋がっていきます。「まち普請」には、市民に身近な「まち」に「普請」の輪を広げていきたいという願いが込められています。

まち普請事業についてはホームページをご覧ください。 <http://www.city.yokohama.lg.jp/toshi/chiikimachi/machibushin/>

まち普請

検索

## 横浜市地域まちづくり推進委員会

ヨコハマ市民まち普請事業部会委員（五十音順）【選考担当年度】

卯月 盛夫	早稲田大学教授（建築・都市デザイン）	【22年度】
河上 牧子	慶応義塾大学産業研究所共同研究員（都市政策、コミュニティ計画）	【22・23年度】
木下 勇	千葉大学教授（緑や子どもの環境のデザイン）	【22・23年度】
嶋田 昌子	NPO 法人横浜シティガイド協会理事（まちづくりNPO）	【22・23年度】
末永 浩之	公募市民	【22・23年度】
轟木ひろ子	国際草の根交流センター 事務局次長	【22・23年度】
名和田是彦	法政大学教授（公共哲学・コミュニティ論）	【22・23年度】
松本 道雄	公募市民	【23年度】
吉田 正臣	公募市民	【22年度】



ヨコハマ市民まち普請事業

## 整備事例集 vol.7

平成24年度整備事例集

# CONTENTS

P.2 事業のあらまし

P.3 整備事例 ① 長津田の樹木を活用したアートワークプロジェクト（緑区）

P.4 整備事例 ② 阿久和北部見守り合い拠点・大きな傘「みまもり広場」（瀬谷区）

P.5 整備事例 ③ 新観光地域活性化構想 歴史と文化のある街・お三の宮通り（南区）

P.6 整備事例 ④ 地域力醸成の拠点となるコミュニティサロンの整備（金沢区）

P.7 提案が実現に至るまで

## 事業のあらまし

「ヨコハマ市民まち普請事業」は、横浜市地域まちづくり推進条例に基づく支援策の一つとして、平成17年4月に始まり、25年4月で9年目を迎えました。

この「ヨコハマ市民まち普請事業」とは、市民の発意とアイデアによる地域課題の解決に資する施設（ハード）を、身近な地域の公共空間や私有地などに整備する提案を募集し、2回の公開コンテストにより選考された提案に対して最高500万円の整備助成金等を交付する事業です。いずれも、整備場所又はその近くの在住者、事業者又は土地・建物の所有者等の3人以上のグループであれば、どなたでも応募することができます。18年度から整備が始まり、24年度までに32か所の整備が終了し、地域まちづくりの拠点として活用されています。

今回は24年度整備の3か所に加え、23年度整備の1か所を合わせて紹介します。（長津田の樹木を活用したアートワークプロジェクトは、22年度に選考され、助成対象のレリーフの制作は23年度に完了しましたが、レリーフを設置する建築物の完成が24年度になったため、今回の事例集に掲載しています。）

23年度の一次コンテストは6月18日に実施され、6グループが挑戦し4グループが通過、翌年2月4日の二次コンテストで、3提案が整備助成の対象に選考され24年度に整備に取り組みました。

この4つの整備事例のプロセス、地元の想いと工夫、そして完成した施設などを紹介します。

## 事業の流れ（平成23年度）

ヨコハマ市民まち普請事業部会  
（学識経験者・まちづくり実践者・公募市民）

市民自ら  
整備・維持管理を実施  
整備助成金として  
最高500万円を交付

[2/4(土)]  
2次コンテスト  
開催

[10/16(日)]  
活動懇談会・  
成果報告会開催

[6/18(土)]  
1次コンテスト  
開催

[4/18~5/20]  
整備提案募集

自ら主体となって  
生活環境の整備を  
したい市民グループ

整備事例  
①

# 長津田の樹木を利活用したアートワークプロジェクト(緑区)

## まちの記憶をみんなで継承する

みどりアートパークの入口から劇場へ向う途中の広いホワイエに入ると、正面に大きな壁画があり、眼を奪われます。でもよく見ると、壁画ではなく、一つひとつのピースが組み合わさり、「輪」になっています。輪は制作者の

思いついた色とりどりの花などのイラストと葉と枝で構成され、それらが大きな一つのレリーフとなってホワイエを引き締めています。このレリーフは平成25年10月5日オープンの横浜市緑区民文化センター「みどりアートパーク」のシンボルになっています。

アートパークは長津田駅前の再開発事業の一環で建築されました。もともとの場所は、汽車をかたどったオブジェがある「汽車ポッポ公園」として親しまれ、桜の名所でもあつ

たことから、公園の姿が変わってしまう再開発に必ずしも賛成する人ばかりではありませんでした。

そこで、長津田駅北側まちづくり協議会は、地域の子供たちと汽車ポッポ公園の桜の木やケヤキを使ってアート作品をつくり、土地の記憶を新しい建物に残そうとしました。この取組には長津田第二小学校全生徒、田奈中学校美術部、そして長津田に住む子どもからお年寄りまで、多くの方が参加しました。

公園の樹木を伐採し、それを製材して板に加工して、ふれあいサロン長津田のメンバーが一枚一枚ヤスリをかけました。そこにアート作家の指導のもと、参加者が絵を描き、絵に沿って糸のことで切断し、周りを赤で色付け



みどりアートパーク内ホワイエに現れた壁面レリーフ



材料となった「汽車ポッポ公園」の原木

ホワイエを飾る以上の作品ができたので、ホワイエだけでなく、隣接する商業施設の階級の壁面にも飾り、制作した全ての作品を生かすことができました。

当時5〜6年の小学生だった制作者たちは、成長し中学生になっています。彼らは商業施設で「これ、私がつくったの」「おれのはこっち」と友だちに自慢したり、アートパークに「見せてください」と訪ねてくるそうです。

こうして多くの人たちの想いででき上がったレリーフは、公園の樹木を再生させただけでなく、参加した一人一人の記憶にも残りました。この記憶が今後どう花開いていくのか、今からとても楽しみです。

して、ニスを塗るなど地域の多くの方の協力で素晴らしい作品がたくさん生まれました。こうしてでき上

がった作品は組み合わせられ、レリーフとなり、みどりアートパークのホワイエ正面を飾っています。また、



長津田の樹木を利活用したアートワークプロジェクト(緑区)  
整備主体：長津田駅北側まちづくり協議会  
整備場所：緑区長津田2丁目  
整備内容：再開発区域内の伐採樹木を使用して制作した壁面レリーフ  
竣工時期：H24.3(制作) H25.3(設置)



木板一枚ずつに絵付けをする様子

地域のみんなの思いがあるひとつひとつの花

# 阿久和北部見守り合い拠点・大きな傘「みまもり広場」(瀬谷区)

## みんなのでつくったみんなの居場所

高齢化が進む中、瀬谷区阿久和北部連合町内会は、住民が互いに見守り合う地域づくりに取り組んできました。そのためには、日々の見守りが重要だと考え、連合町内会、地区社会福祉協議会、ボランティア組織「おやじの広場」などの多様なグループが「阿久和北部見守り合いネットワーク実行委員会」を構成し、地域づくりを進めています。また、毎年「見守り合いフェスティバル」を行い、



材料から組み立てたログハウス

公園の入り口にも、大きな傘「みまもり広場」の看板



情報交換なども行っています。

そこから一歩すすめて、地域のネットワークを確かなものにするには、常設の交流拠点がほ

しいという声が大きくなってきました。自治会には会館がないところも多く、気軽に集まれる場所がなかったのです。そこで、阿久和向原第二公園の敷地内に拠点をつくろう、という思いが高まり、まち普請コンテストに応募、見守り整備対象となりました。

整備場所を選んだのは、道路から一段高くなっている人目の届きにくい公園。その活性化も考えてのことでしたが、公園の中に建物を設置するのはほとんど例がないことだけに、調整は難航しました。しかし、提案グループをはじめとして、区役所の様々な部署等が協力し、知恵を出し合い、まさに協働でハードルを越えることができました。

実際に整備が始まってからも「みんなで作る」をモットーに、プロの手を借りたのは、基礎工事と屋根の仕上げのみ、それ以外は、ほぼ地域の人たちで担いました。最初から多

くの人の協力を得ながら進めることで、みんなの居場所という意識が高まることも考えて、ログハウスの組み立てイベントを開催したところ、子どもたちなど約240人の地域住民が集まりました。その後も、屋根をあげたり、ペンキを塗ったり、戸棚を作ったりしたのは「おやじの広場」が担当、文字通り、雨の日も雪の日もコツコツ作業をしました。

そんな奮闘努力の結果、無事にログハウスは完成、オープニングイベントには、約1000人が集まりました。関わった人が大事に思う、みんなの大切な場所になったのです。

現在は、日ごろの当番や維持管理も地域で分担して運営しています。いざという時にも「見守り合える拠点」をつくりたいという地域住民の強い思いから、静かだった公園は、多様な世代が集い安心して交流できる、地域の暖かい拠点として生まれ変わりました。



ログハウスの中は、みんなの想いがたくさん詰まる



ひとつひとつのパーツからみんなで組み立て



**阿久和北部見守り合い拠点・大きな傘「みまもり広場」(瀬谷区)**  
 整備主体：阿久和北部見守り合いネットワーク実行委員会  
 整備場所：瀬谷区阿久和東1丁目 阿久和向原第二公園  
 整備内容：キットハウス  
 竣工時期：H25・6

# 新観光地域活性構想 歴史と文化のある街・お三の宮通り(南区)

## 地域で育てるみんなの庭



お三の宮の歴史が分かる掲示板とモニュメント

南区吉田町は、横浜の礎とされる吉田新田だったところで、「お三の宮」とは地元の日枝神社の俗称で、かつて吉田新田の鎮守として建てられました。そうした横浜の歴史が息づき、戦前戦後、横浜一賑わった場所だったそうです。ところが最近では高齢化の進行とともに商店の閉店が多くなり、賑わいを取り戻せずシャッター街となりました。お三の宮通りまちづくり委員会は、この街は何が誇れるのかを考え、横浜のルーツとなる

歴史と文化という魅力を活かし、観光で地域をより盛り上げようと様々なプロジェクトに取り組んできました。

その一環が、今回の「まち普請事業」による整備です。約600mにわたるお三の宮通りの沿道に、宮前の雰囲気を感じられるモニュメント、道しるべ、歴史の掲示板、植栽防護柵を設置しました。モニュメントは灯籠を模した形となっていて、実際にろうそくを灯すこともできます。これらの設置物はまちのシンボルスポットとして、地域の方たちが日常的に自分の庭を手入れするように維持管理に携わり、それによってまちづくり活動へ参加するきっかけにもなります。新しく移り住む人も増え、以前のことを知らない人も増えて



まちをイメージした灯籠のモニュメント

コミュニティサロン前のシンボルスポット



きました。外から引越して来た人には、掲示板や灯籠が地域を知る機会になることが期待されています。

お三の宮通りにはコミュニティサロンも設けられており、子どもからお年寄りまで、多世代が集います。今回整備されたシンボルスポットとあわせて、人々が集まる受け皿ができています。「地域で育てるみんなの庭」というお三の宮通り周辺の皆さんの想いが集まり、徐々にまちのイメージが形となっています。

今後は、防災に船を利用する、大岡川を活用したまちづくりに取り組む予定もあるそうです。まち普請の経験を活かし、今後のまちづくりプロジェクトが大きく発展していくことが期待できるお三の宮通りです。



**新観光地域活性構想 歴史と文化のある街・お三の宮通り(南区)**  
 整備主体：お三の宮通りまちづくり委員会  
 整備場所：南区南吉田町1丁目5丁目  
 整備内容：モニュメント、歴史の掲示板、植栽防護柵、道しるべ等  
 竣工時期：H24.9



お三の宮の歴史と文化を伝える、まちの風景

整備事例  
4

# 地域力醸成の拠点となる「コミュニティサロン」の整備（金沢区）

## 「自治会としてやれることはしたい」



自治会発のコミュニティサロン「ほっこり」

年退職したばかりの人など、100人もの方が手を挙げてくれました。その一方でアンケータをとると、やはり多くの人から「見守ってほしい」という要望があり、いろんな人が集える拠点の必要性が浮かび上がってきました。そして、ボランティアグループ「お助けマン」がスタートしたのです。

ある自治会が「日曜喫茶」という場を運営していることをテレビで知った推進メンバーが、「うちにもあったらいいね」と話をしていくと、前会長が「まち普請」の情報を入手し、応募した結果、見事選ばれました。

自治会でボランティアグループを運営し、しかも拠点まで整備するとは、珍しいことです。実際に「ここまで自治会でする必要があるのか？」という御意見の人もいたそうですが、自治会として「すべて行政任せにするの

手作りの棚の小箱ショップとキッズコーナー



ではなく、自分たちでできることはしよう」と決め、前に進むことになりました。今は「お助けマン」の活動、そしてボランティアが中心となって運営する「ほっこり」も、自治会活動に位置づけ

られています。

最初は特定の曜日だけオープンしようと考えていたところ、せっかくだから食事を出そうと料理ができる人を募集すると、学校給食の経験がある人など、多くの手が挙がりました。「厨房施設に使える補助金があるよ」という情報が集まってきたりして、立派なサロンができちゃった」と自治会役員のみなさん。

棚やキッズコーナーなどはお助けマンたちの手作り。だから、綺麗な中にもぬくもりがある、とてもくつろげる場所になりました。

ここで知り合ってサークルが生まれるなど、始まって間もないにもう成果が出ています。お助けマンは次に何に変身するのか？とワクワクする、金沢区の拠点です。

「ここまで立派な拠点が作れるとは、思ってもみなかったんだけど」と、今回整備された素敵なサロン「ほっこり」で、笑顔の自治会長と副会長。11時半になると、美味しいランチを目指してたくさん人がやってきます。コーヒーも飲めるし、写真や絵などを展示するスペース、そして自慢の手作り品の小箱ショップまで兼ね備えています。



昼時は地域の住民で賑わう

### 地域力醸成の拠点となるコミュニティサロンの整備（金沢区）

整備主体…湘南八景自治会役員と湘南八景「お助けマン」  
整備場所…金沢区東朝比奈2丁目  
整備内容…コミュニティサロン（天井、壁、床、建具、給排水設備、電気設備等）  
竣工時期…H24.6



ボランティア手作りの日替わりランチ  
このボリュームで5000円

# 提案が実現に至るまで

## 相談

まちづくりのアイデアが浮かんだら、まずは市の担当者に相談してみましょう。いろいろなアドバイスを受けることができます。

## 事前登録

応募を検討している人は、「事前登録」ができます。登録すると、無料でまちづくりの専門家によるアドバイスを受けることもできます。

## 応募

ここでは、簡単な施設整備のアイデアで十分です。



公開形式のコンテストで、審査員と一般参加者も交えて、各提案の実現に向け会場全体で議論を行います

## 一次コンテスト

提案者が模造紙などを使って、審査員と参加者に提案内容を説明します。ここでは、「創意工夫」「意欲」「公共性」などの観点で審査され、質疑を経て通過グループが選考されます。通過グループは、二次コンテストに向けて具体的な計画づくりに取り組みます。

※一次コンテストを通過したグループへの支援として、まちづくり活動の輪を広げていくため、まちづくりの専門家の支援や広報資料の作成などに活用できる活動助成金（最高 30 万円）を受けることができます。

過去から今年までのまち普請整備グループや、まちづくりに関心のある「まちづくりびと」が大集合して、それぞれの想いを共有します

## 活動懇談会

二次コンテストへ向けて、提案グループと審査員・整備済グループとの意見交換をする「活動懇談会」があり、そこで具体的、実践的なアドバイスを受けることができます。

## 二次コンテスト

一次コンテストの通過グループが、「創意工夫」「実現性」「公共性」「費用対効果」「地域まちづくりへの発展性」の5つの観点で審査されます。

## 整備

これまでの活動で培ってきたノウハウや地域の仲間とのつながりを活かして、みんなで整備します。

## 活用運営

整備後は、維持管理、活用・運営などを通じてまちづくりの輪を広げていただきます。



「ヨコハマ市民まち普請事業」を通して、地域のつながりをより深め、そして他の地域や団体とも一緒にまちづくりのネットワークを広げていきましょう！

ヨコハマ市民まち普請事業

# 整備事例集 vol.7

平成 24 年度整備事例集

- 発行 平成 25 年 10 月  
横浜市都市整備局地域まちづくり課  
〒231-0017 横浜市中区港町 1-1 TEL 045-671-2679 FAX 045-663-8641
- 編集・デザイン 特定非営利活動法人 アクションポート横浜

ヨコハマ人・まち  
-まち人がまちをつくる-

身近なまちづくりに役立つ無料のメールマガジン「ヨコハマ人・まち」を読みませんか？  
メールマガジンについてはホームページをご覧ください。

ヨコハマ 人・まち

検索

